

安全への提言

|||||

APASES の設立と今後の国際協力

井 上 紘 一*

今年4月に公表された「安全・安心な社会の構築に資する科学技術政策に関する懇談会」報告書に、国際協調に関する項目があり、「人や物資、情報等が世界中を行き来する中、一つの国や地域に発生した危険因子は、当該国・地域にとどまらず国際的に波及する状況にある。よって、国内の安全・安心の問題に取り組むだけでなく、諸外国と協力・連携して国際的な安心・安全に取り組んでこそ、わが国の安全・安心が実現できる」と述べ、とりわけ、地理的に近接しているアジア諸国との連携・協力が重要である、と結んでいる。

国際協力の対象となる問題には二つの側面がある。一つは上述にあるような、グローバルな問題である。もう一つは地域的な問題であるが、世界のいたる所で起こっている、あるいは起こりうる問題である。これはユニバーサルな問題といわれ、協会の対象としている産業安全、労働安全等の安全問題は、主としてこの範疇に含まれる。この方面での国際協力もグローバルな安全問題に劣らず重要である。

APASES (アパセスと発声) についてご存じの会員はごくわずかであろう。しかし今後の協会の国際協力或は国際貢献を考えると極めて重要なキーワードとなることは疑いない。

APASES は Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies (アジア太平洋安全工学学協会連合) の頭文字から取った略称である。このアジアを中心とした新国際組織は、2003年10月2日までにその規約 (Constitution) が参加5カ国 (地域) (韓国, 日本, 台湾 (正確には Chinese Taipei), 中国, シンガポール) の代表によって承認され、正式に発足した。初代の会長 (President) には大島榮次東工大名誉教授が、また副会長には台湾の Shuh Woei Yu 博士が選出された。そのほかの3カ国の代表は、Young Soon Lee 教授 (韓国), Changgen Feng 教授 (中国), Ching Chi Bun 教授 (シンガポール) であり、幹事 (Secretary) には暫定的に筆者が当たることとなった。

APASES の設立に至るまでの経緯については稿を改

めて記録に残したいと考えるが、ここ2, 3年の経過のみ簡単に纏めてみる。2001年11月、京都で開催された APSS 2001 での運営委員会には、日本のほか、韓国, 台湾, 中国, シンガポールからの代表の参加を頂き、APSS (Asia Pacific Symposium on Safety) を2年ごとに定期的に開催すること、APASES の設立準備を始めることおよび大島榮次名誉教授がこの任に当たることが決定された。この決定を受け、筆者が規約 (Constitution) の原案を作成し、協会の国際交流委員会において検討を行い、成案を得た。これを参加予定の5カ国 (地域) 代表に示し、各種の修正を経て、2003年10月2日までにすべての参加国 (地域) 代表から承認され、APASES が正式に成立した。台北にて開催された APSS 2003 に合わせて APASES の第1回運営委員会 (最高議決機関) が開催され、設立委員による規約の署名式のほか、APSS 2005 を2005年に中国で開催すること、Shuh Woei Yu 博士 (台湾) を新会長に、Changgen Feng 教授 (中国) を新副会長に選出した (任期は2005年までの2年間)。そのほか、今後の具体的な活動方針等について審議がなされた。

APASES の目的は規約の第2章に、広い意味での安全工学・科学に関連する科学のおよび技術的情報の国際的な交流を促進し、もってそれらの理論と応用に従事している人々に貢献すること、さらに、安全工学・科学に従事する人々の間に協力関係を樹立するための枠組みを提供すること、および安全を専門分野とする人々の間に自由な意見の交換を促進すること、と謳われている。また、その活動は第3章に、地域的な或は他の国際的な組織と協力して、安全工学および科学を推進するため、2年ごとにアジア太平洋安全シンポジウム (APSS) を組織し主催すること、および APASES の目的を達成するために必要と認められる他の会議または技術委員会を設立すること、と述べられている。

会員諸兄弟のご協力とご支援を得て、APASES が順調に育って行き、参加国学協会とその会員の連携と協力を通じてアジア太平洋地区ひいては世界の安全問題が解決に向かうことを願っている。

* 大阪産業大学工学研究科：〒574-8530 大阪府大東市中垣内 3-1-1